

# 「芽小 - ジャンボ書道」



- 1 活動名  
「ジャンボ書道」
- 2 日 時 令和7年 2月3日 金曜日  
1～4校時（8：35～12：15）
- 3 場 所 芽室小学校学校 体育館
- 4 講 師 八重柏 冬雷先生
- 5 参加者 6年生児童109名 教職員7名  
合計 116名

## 6 内容

### (1) 目的

◎学校運営協議会の取組を通して、特色ある教育活動を行うこと。全身を使って表現する「ジャンボ書道」を体験し、達成感や楽しさを知ることによって生涯にわたり芸術を愛好するきっかけにすること。

### (2) 内容

- ①自分が書きたい漢字一文字を気持ちを込めて書く。
- ②卒業制作の一環として、卒業式で掲示し披露する。

### (3) 感想

- ・初めてとても太い筆で、大きな半紙に文字を書いたので緊張しましたが、自分の気持ちを表すことができました。（6年生児童）
- ・芽室に有名な書家がいることにびっくりしました。（6年生児童）
- ・本物の芸術に触れることができるとてもよい体験になりました。ありがとうございました。（6年生担任）

### (4) 評価

- ・芽室小学校ならではの教育活動を行うことができた。達成感や楽しさを味わい芸術に関心をもつきっかけにすることができた。



## 7 まとめ

### (1) 成果

学校運営協議会で紹介していただいた地域の人材を有効に活用することができた。今後も子どもにとって意義のある取組を話し合い、芽室小学校ならではの教育活動をしていきたい。

### (2) 課題

持続可能な活動にすることが課題である。活動自体が単調にならないように、学校運営協議会で色々なアイデア出し合い工夫して取り組んでいきたい。

## 芽室小学校 学校運営協議会

会 長 柴田 真二 副会長 岩野 真志  
 委 員 太田 久恵 佐藤 道子 高桑 衣佳 嶋野奈津美 小寺加奈恵 塩田 直之  
 新町 洋行 福澤 知浩 酒井 正明 松木 秀英 河原 貴子 石田有美子

# 「郷土愛や将来の職業観を育もう」



【前半の「僕がやってきたこと」等講話】

- 1 活動名 「“語る”南小スタイル」
- 2 日時 令和7年 1月24日金曜日  
3校時(10:35~11:20)
- 3 場所 芽室南小学校体育館
- 4 講師 芽室町役場魅力創造課  
渡辺 浩二様

5 参加者 児童(生徒)36名 教職員6名 学校運営協議会委員7名 合計49名

## 6 内容

### (1) 目的

- ◎ 芽室町とゆかりのある方や芽室町に尽力されている方からの講話等を通じて、本校児童の郷土愛や将来の職業観を育む

### (2) 内容

- ① 講師の職業観や郷土愛についての講話
- ② 縦割り班の児童によるグループワーク

### (3) 感想

- ・「知っている、できる、やってみる(行動できる人間に)の3つを知ることができて、これからもこれを使ってみんなのために動けたらいいなと思いました。(6年生児童)
- ・職業に関係のあることをやってほしいです。理由は、まだ職業が決まっていないので決めるのに参考にしたいからです。(4年生児童)
- ・子どもたちの感性を見ることができ、すばらしかった。実現も含めて、子どもが夢を語れる社会にしたい。(学校運営協議会委員)
- ・子どもたちが思っていたよりも芽室町のことを知っていた。積極的に参加している様子が見られて良かった。(学校運営協議会委員)

### (4) 評価

- ・講話を聴くだけでなく参加型にしたことにより、楽しくみんなで協力できたことが児童アンケートからわかった。(Googleforms)
- ・グループワークを取り入れ、児童の主体的な活動が活発に行えた。

## 7 まとめ

### (1) 成果

- ① 児童参加型のスタイルにすることにより、児童に興味・関心を持たせ、主体的に考えやすく実施できた。
- ② 年度当初より、立案して何回か打合せを設定することにより、児童にあった内容を吟味することができた。

### (2) 課題

- ① 1コマ(45分)で実施したが、内容によっては時間を長くすることも考慮していきたい。
- ② 参加学年4~6年生だが、このまま継続か参加学年を増やすかも含め、協議していきたい。



【後半の縦割り班でのグループワーク】



【後半の各グループからの提案・発信】

## 芽室南小学校 学校運営協議会

会長 福田 清貴 副会長 北本 英彦  
 委員 高田 昌樹 堀 文宏 堀江 貴博 白川 学 後藤 康貴 高桑 衣佳  
 中村 浩幸 吉岡 謙作 渡辺 素子 地蔵 佳昭

# 「ユメミル 芽中！」



- 1 活動名  
「夢講話」(めむろ郷育・夢育推進事業)
- 2 日 時 令和6年11月1日 金曜日  
3～4校時 (10:45～12:35)
- 3 場 所 芽室中学校 体育館
- 4 講 師  
川上さゆりさん (元プロダンサー)  
鈴木 豊さん (元プロバスケボール選手)  
佐藤 光さん (元プロアイスホッケー選手)

5 参加者 全校生徒 380名 教職員 37名 学校運営協議会委員 1名  
CSコーディネーター 1名 学校支援ボランティア 1名 合計 420名

## 6 内 容

### (1) 目 的

- ・生涯をかけての理想や目標をもつことが、日々の生活を充実させることにつながることに気づかせる。
- ・成長とともに大人に近づいていることを実感すること、自らの将来を展望することを通して、学ぶ意味や自分の将来、人生について考えさせる。
- ・郷土(ふるさと)の大切さ、素晴らしさに気づかせる。

### (2) 内 容

「夢への挑戦心を育む(夢講話)」を開催しました。当日は生徒会が主体となって進められました。3名からはチャレンジし続けることの大切さや経験を次につなげるプラスの生き方について学ぶことができました。

講話後には、プロの技を目の当たりにすることもでき、とても貴重な体験になりました。芽中の皆さんも目標やビジョンを描いて、行動し続けることで「夢」を叶えて欲しいと思います。

### (3) 感 想

- ・挫折したときはその挫折をプラスにできるようにどうすれば良いのかを考えることが大切だということ。夢を諦めないで努力する姿勢に感動しました。(生徒)
- ・「プロ」に対して漠然としたイメージを持っていましたが、今回の講話から、道を極めるための努力や周囲のサポート等、とても大変な経験を乗り越えて実現したことに感動しました。(地域住民)

### (4) 評 価

- ・子供たちが地域の著名な方とこの学習を通して関わりを持てたことは、とてもよい刺激になりました。



## 7 まとめ

### (1) 成 果

- ① 地域の人材により普段の授業では味わえない学びがあり、素晴らしい取組であった。
- ② バリエーションに富んだ人選で、親近感を抱いた。さらに実技の披露と体験が良かった。

### (2) 課 題

- ① 不登校や行き渋りの子が少なくありません。どのように関わっていけるのかが課題です。
- ② 学校だけでは解決できない諸問題に対し、具体的な課題解決方法を熟議する必要がある。

## 芽室中学校 学校運営協議会

会 長 陰元 正二 副会長 今村 江穂  
 委 員 土屋 直道 芦澤 右史 棚瀬 陽一 武藤 健護 島影由里香 高桑 衣佳  
 白川 諭 新倉 忠司 大橋 裕一 神 史明 大原 卓也 西 貴章 樽松 正人

# 地域の力で 「西小交流まつり」がパワーアップ！



- 1 活動名  
「地域人材の手による昔あそびコーナーとお店づくりのワンポイントアドバイス～西小交流まつりにて～」
- 2 日時 令和6年11月22日 金曜日  
1～3校時（9：00～11：30）
- 3 場所 芽室西小学校 会議室

## 4 講師や協力機関など

芽室西小学校学校運営協議会、学校支援ボランティア、株式会社北海道パートナーズとかち

- 5 参加者 児童 304名 教職員29名 学校運営協議会委員3名  
(株)北海道パートナーズとかち(北海道家庭教育サポート企業)1名  
学校支援ボランティア 3名 合計340名

## 6 内容

### (1) 目的

◎ 学校運営協議会委員から、「体験の場が必要」、「デジタルの時代だからこそアナログの経験も必要」、「多世代の人とのふれあいの機会が大切」などの意見があったことを受けて、学びの環境の充実や人とのふれあいの機会の拡充を目的に、学校運営協議会で本事業を企画立案した。

### (2) 内容

- ①地域の大人による「昔遊びコーナー」の実施  
学校運営協議会委員と学校支援ボランティアが、めんこやけん玉などの昔遊びコーナーを運営した。
- ②専門家からのお店づくりについてのアドバイス  
株式会社北海道パートナーズとかちの丹羽祐介氏を講師に招き、事前学習を実施した。

### (3) 感想

- ・はじめはなかなか上手くできなかったけど、ボランティアの人が優しく教えてくれたのでできるようになってうれしかった。(2年生児童)
- ・学校運営協議会委員が直接児童に関わる機会はありませんので、今後もこのような機会がもっと増えると良い。(学校運営協議会委員)



## 7 まとめ

### (1) 成果

- ①昔遊びコーナーでは子どもと大人のふれあいや子どもが昔遊びに挑戦する様子が見られた。
- ②お店づくりのコツやPRについて事前に学んだことで、お客さんを意識した活動となった。

### (2) 課題

- ①昔遊びコーナーは大変盛況であったが、子どもが多く集まりすぎたなどの課題があった。次年度に向けて、遊びの種類や時間、場所などについて改善していきたい。
- ②専門家による事前学習は、マンネリ化しないように常に内容の見直しが必要である。

## 芽室西小学校 学校運営協議会

会長 白銀 孝志 副会長 寺町 智彦

委員 岡田 幸造 高橋美由紀 中田 利隆 山川 佳織 南館 直人 佐藤 良諭

吾妻 昌三 熊谷 圭志 川岸 綾子 大熊 孝史

# 「年輪を重ね、 よりよく生きる喜びを深めよう」



- 1 活動名  
「高齢者との異年齢交流」
  - 2 日時 令和6年10月24日木曜日  
3・4校時（10:50～12:40）
  - 3 場所 けいせい苑（芽室町）
  - 4 協力機関  
けいせい苑（介護老人福祉施設）
- 5 参加者 生徒49名 教職員5名 学校運営協議会委員1名 合計55名

## 6 内容

### (1) 目的

- ◎ 長年に渡って芽室町のまちづくりに貢献した高齢者の方とのふれあいで「郷土を愛する心」や「よりよく生きる喜び」を学ぶ機会を持たせたいとの思いを熟議で確認した。その実現に向け、高齢者の思いや考えに触れることで、生き方の視野を広げるとともに、ふるさと芽室で、「より良く生きる喜びを、仲間と共に感じ合う」豊かな体験を通じて、自己実現を図る学びとしたい。

### (2) 内容

- ①けいせい苑での合唱発表
  - ・A組「地球星歌」
  - ・B組「ほらね」
- ②けいせい苑施設利用者とのふれあいインタビュー
  - ・子どものころの思い出について
  - ・芽室町に住んでいる幸せ・喜びについて

### (3) 感想

- ・今では考えられないようなこと、幸せなこと、面白いエピソードをたくさん知ることができてとても良い経験になりました。（2年生徒）
- ・合唱の素敵なハーモニーに心打たれました。交流では生徒の皆さんが施設利用者の生き生きした姿を引き出すなど貴重な時間となりました。（学校運営協議会委員）

### (4) 評価

- ①A・B・C（校務分掌等によるPDCAチェック表より）

## 7 まとめ

### (1) 成果

- ①高齢者との他者参照により、多様な視点の獲得、理解の深化、異年齢との学び合いを経験し、高齢者の方や同級生との協働意識を育んだ。
- ②異年齢の方との交流を通じて、コミュニケーション能力を高める契機を得た。

### (2) 課題

- ①体験活動と探究活動を一体的に行い、生徒個々の課題を探究する深い学びにつなげる。
- ②他者参照が効果的になるよう「主体的・対話的で深い学び」に繋がる多様な学習を保証する。



## 芽室西中学校 学校運営協議会

会長 入口 吉貴 副会長 岩井 和彦  
 委員 高橋 広明 平岡 早苗 藤原美紀子 椿原 雅章 神藏 葉子  
 笹木 邦真 和田 秀治

# 「地域との連携・協働による防災対策」

～上美生総合防災訓練を通して～



- 1 活動名 「上美生地区総合防災訓練」
- 2 日 時 令和6年10月9日水曜日  
3、4校時(10:43~13:00)
- 3 場 所 上美生小学校 体育館(主会場)
- 4 協力機関 芽室町、消防署、消防団、自衛隊、他

5 参加者 小学生27名、中学生22名、教職員26名、学校運営協議会委員13名  
芽室町教育委員会12名 学校支援ボランティア2名、自衛隊員11名、  
消防関係4名、教育関係者5名、実行委・地域住民67名 合計189名

## 6 内容

### (1) 目的

◎コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を両輪とした取組により、年代に応じた「自助・共助・公助」の役割を知り、地域、学校、保護者、関係機関が連携・協働して災害時の避難所運営を行うことで地域防災力を高め、持続可能な地域づくりにつなげる。

### (2) 内容

#### ①「シェイクアウト訓練」

・避難行動の指示を正確に捉え、自分の安全を守る行動をとる。

#### ②「防災教室」

・避難所運営体験活動を通して避難所の機能を理解し、緊急時における「自助・共助・公助」の役割を知る。

### (3) 感想

- ・今回の防災訓練では、小中学生が協力し合うという新しい形だったのですか、そのおかげで関係を深め助け合う力を育むことができたと思います。(児童生徒)
- ・各班に分かれた小中学生の動きが良かったです。避難誘導する高齢者とずーっと話をしながら誘導する中学生の姿に感心しました。(地域住民)

### (4) 評価

【評価項目】□避難所運営に参加することで、地域防災力は高まったと思いますか。

【結 果】①とても高まった 50.9% ②高まった 39.6%  
③高まっていない 0% ④その他 9.4%



## 7 まとめ

### (1) 成果

- ①地域住民が連携・協働し、災害(地震)時の避難の仕方について実践力を高めることができた。
- ②救急救命訓練や避難所設営及び運営の実践を通して地域防災力を高めることができた。

### (2) 課題

- ①より良い避難方法や避難所運営について組織体制を含め一層の検討が必要である。
- ②防災教室について、参加者がより多く体験できるように検討する必要がある。

## 上美生小中学校 学校運営協議会

会 長 広瀬 一也 副会長 川端 数昭  
委 員 河口 啓明 斉藤 直裕 横山 泰平 蒲生 洋 大河内崇宏 高橋 圭輔 高橋 裕美  
五十嵐純子 吉野 牧子 岡崎榮太郎 吉藤 清孝 藤林 政宏 横山 修司 山本 英司  
三寺 康裕 野村 真実 中山 隆